

**CASBEE神戸 ver.3**  
**ダイヘン六甲事業所別棟**

■使用評価マニュアル: CASBEE神戸 ver.3

欄に数値またはコメントを記入 ■評価ソフト:

CASBEE神戸 ver.3/CASBEE-BD

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
<b>Q 建築物の環境品質</b>										<b>2.8</b>
<b>Q1 室内環境</b>							<b>0.30</b>			<b>3.1</b>
<b>1 音環境</b>						<b>3.0</b>	0.15			<b>3.0</b>
1.1 室内騒音レベル						<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>		
1.2 遮音						<b>3.0</b>	0.40			
1 開口部遮音性能						3.0	0.60	<b>3.0</b>		
2 界壁遮音性能						3.0	0.40	<b>3.0</b>		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						<b>3.0</b>	-	<b>3.0</b>		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						<b>3.0</b>	-	<b>3.0</b>		
1.3 吸音						<b>3.0</b>	0.20	<b>3.0</b>		
<b>2 温熱環境</b>						<b>2.3</b>	0.35			<b>2.3</b>
2.1 室温制御						<b>3.7</b>	0.50			
1 室温						3.0	0.38	<b>3.0</b>		
2 外皮性能						3.0	0.25	<b>3.0</b>		
3 ゾーン別制御性				部屋毎に室外機系統分けし、冷暖選択を可能としている		5.0	0.38			
2.2 湿度制御						<b>1.0</b>	0.20	<b>3.0</b>		
2.3 空調方式						<b>1.0</b>	0.30	<b>3.0</b>		
<b>3 光・視環境</b>						<b>2.9</b>	0.25			<b>2.9</b>
3.1 昼光利用						<b>2.2</b>	0.30			
1 昼光率						1.0	0.60	<b>3.0</b>		
2 方位別開口							-	<b>3.0</b>		
3 昼光利用設備				ハイサイドライトを設けている		4.0	0.40	<b>3.0</b>		
3.2 グレア対策						<b>3.0</b>	0.30			
1 昼光制御						3.0	1.00	<b>3.0</b>		
3.3 照度				事務室の設計照度を500Lx以上としている		<b>4.0</b>	0.15	<b>3.0</b>		
3.4 照明制御						<b>3.0</b>	0.25	<b>3.0</b>		
<b>4 空気質環境</b>						<b>4.4</b>	0.25			<b>4.4</b>
4.1 発生源対策						<b>5.0</b>	0.50			
1 化学汚染物質				内装材料は全てF☆☆☆☆		5.0	1.00	<b>3.0</b>		
4.2 換気						<b>3.0</b>	0.30			
1 換気量						3.0	0.33	<b>3.0</b>		
2 自然換気性能						3.0	0.33	<b>3.0</b>		
3 取り入れ外気への配慮						3.0	0.33	<b>3.0</b>		
4.3 運用管理						<b>5.0</b>	0.20			
1 CO <sub>2</sub> の監視						-	-			
2 喫煙の制御				喫煙室を設けている		5.0	1.00			
<b>Q2 サービス性能</b>							<b>0.30</b>			<b>3.6</b>
<b>1 機能性</b>						<b>3.5</b>	0.40			<b>3.5</b>
1.1 機能性・使いやすさ						<b>3.3</b>	0.40			
1 広さ・収納性				執務スペース約6150㎡ 従業員30名程度 205㎡/人		5.0	0.33	<b>3.0</b>		
2 高度情報通信設備対応						1.0	0.33	<b>3.0</b>		
3 バリアフリー計画				建築物移動等円滑化基準チェックリスト適用		4.0	0.33			
1.2 心理性・快適性						<b>3.3</b>	0.30			
1 広さ感・景観				事務室天井高=2700、工場天井高>2700mm		4.0	0.33	<b>3.0</b>		
2 リフレッシュスペース						3.0	0.33			
3 内装計画						3.0	0.33			
1.3 維持管理						<b>4.0</b>	0.30			
1 維持管理に配慮した設計				内部床はコンクリート表面硬化を使用、外部は高耐候性塗料を使用		4.0	0.50			
2 維持管理用機能の確保				清掃用流しの設置、ごみ庫の設置		4.0	0.50			
<b>2 耐用性・信頼性</b>						<b>3.2</b>	0.30			<b>3.2</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振						<b>3.0</b>	0.50			
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						3.0	0.80			
2 免震・制震・制振性能						3.0	0.20			
2.2 部品・部材の耐用年数						<b>3.6</b>	0.30			
1 躯体材料の耐用年数						3.0	0.20			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						3.0	0.20			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔						3.0	0.10			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				屋外ダクトはステンレス製としている		5.0	0.10			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				給水:VLP、給湯:SUS、排水:VPIにて計画		5.0	0.20			
6 主要設備機器の更新必要間隔						3.0	0.20			
2.4 信頼性						<b>3.2</b>	0.20			
1 空調・換気設備				部屋毎に系統分けすることで優先運転の選択が可能、吊配管対策を		5.0	0.20			
2 給排水・衛生設備						2.0	0.20			
3 電気設備						3.0	0.20			
4 機械・配管支持方法						3.0	0.20			
5 通信・情報設備						3.0	0.20			

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>4.3</b>	0.30	-	-	<b>4.3</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>3.8</b>	0.30	-	-	
1 階高のゆとり			3.0	0.60	3.0	-	
2 空間の形状・自由さ		壁長さ比率=0.065 外周壁181.89M 耐力壁無し 専有面積2785.2㎡	5.0	0.40	3.0	-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>		1F:9,800N/㎡、2F:3F:4,900N/㎡	<b>5.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	-	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>4.2</b>	0.40	-	-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性		将来対応用スリーブを設置	4.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性		点検口から配線敷設	5.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性		点検口から配線敷設	5.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性		搬入扉を設置	5.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保		屋上、室外機置場にスペースを確保	4.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	<b>0.40</b>	-	-	<b>2.1</b>
1 生物環境の保全と創出			<b>1.0</b>	0.30	-	-	<b>1.0</b>
2 まちなみ・景観への配慮			<b>3.0</b>	0.40	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>2.0</b>	0.30	-	-	<b>2.0</b>
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			<b>2.0</b>	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			<b>2.0</b>	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>3.4</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	<b>0.40</b>	-	-	<b>3.2</b>
1 建物外皮の熱負荷抑制			<b>4.8</b>	0.01	-	-	<b>4.8</b>
2 自然エネルギー利用		ハイサイドライトを設置	<b>4.0</b>	0.12	-	-	<b>4.0</b>
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 0.85	<b>2.7</b>	0.62	-	-	<b>2.7</b>
4 効率的運用			<b>4.0</b>	0.25	-	-	<b>4.0</b>
集合住宅以外の評価			<b>4.0</b>	1.00	-	-	
4.1 モニタリング		電力量計測に計測機能付ブレーカーを設置	5.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			3.0	-	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	-	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>4.0</b>
1 水資源保護			<b>3.4</b>	0.20	-	-	<b>3.4</b>
1.1 節水		節水型器具を設置	<b>4.0</b>	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			<b>3.0</b>	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			<b>4.3</b>	0.60	-	-	<b>4.3</b>
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.11	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.22	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		電路材…構造2次部材	5.0	0.22	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		再生砕石…アスファルト下地 ビニル床シート…便所 ビニル床タイ	5.0	0.22	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		鉄骨部材に乾式工法で仕上げ材料を取付ている、工場内は設備露	5.0	0.22	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			<b>3.8</b>	0.20	-	-	<b>3.8</b>
3.1 有害物質を含まない材料の使用		ビニル床タイル・シート用接着剤、サッシ用シーリング材	<b>5.0</b>	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			<b>3.3</b>	0.70	-	-	
1 消火剤		N2消火剤	4.0	0.33	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)			3.0	0.33	-	-	
3 冷媒			3.0	0.33	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.2</b>
1 地球温暖化への配慮		一般的な建物に対して66%	<b>3.3</b>	0.33	-	-	<b>3.3</b>
2 地域環境への配慮			<b>3.4</b>	0.33	-	-	<b>3.4</b>
2.1 大気汚染防止		燃焼機器無し	<b>5.0</b>	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			<b>2.7</b>	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減			3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制			2.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			<b>3.0</b>	0.33	-	-	<b>3.0</b>
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 騒音			3.0	1.00	-	-	
2 振動			-	-	-	-	
3 悪臭			-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			<b>2.3</b>	0.40	-	-	
1 風害の抑制			2.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制			3.0	-	-	-	
3 日照障害の抑制			3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			<b>4.4</b>	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		チェックリストの過半を満たしている	5.0	0.70	-	-	
2 星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	